

鈴蘭台教会設立40周年記念ミサ



9月18日(日)、鈴蘭台教会において、前田万葉大司教・安曼祐神父司式で、小教区設立40周年記念ミサが行われた。本来は昨年が40周年だったが、実施間際に緊急事態宣言が出されて公開ミサが中止となり、1年延期されていた。ただ、名称はそのまま「40周年記念」とした。

記念ミサの前、最初に、昨年聖堂に置かれた当教会の守護聖人聖ヨセフと御子の像を前田万葉大司教に祝別していただいた。前田大司教はミサ説教の中で、「鈴蘭のともによせつと四十年」「鈴蘭のともによせつと永遠に」の句を披露されるとともに、「聖ヨセフにならって、父の心で、奉仕の心で、互いに仕

え合ってこの教会を良くし、また、一人ひとりが仕合わせになるように聖ヨセフの取次ぎを願います」と述べられた。また、「仕合はせのともによせつと教老日」の句を紹介され、「教皇フランシスコが言われるように、『年を取ったことを恥じるな、失望するな、自信を持ちなさい。年を取った

ことは誇りである』。若い人は高齢者の功績、経験を快く受け入れ、大切にしてください。このことは教会の中の信仰生活も全く同じです」と説かれた。説教後、当教会をこれまで支えてこられた敬老会信徒全員を特別に祝福してくださった。ミサ後、前田大司教と安神父を中心に、敬老会信徒全員で集合写真を撮影して行事を終えた。コロナ禍がまだ収束していないため、敬老会信徒が近況報告と歓談の場として楽しみにしていた祝賀会が中止となったことは残念だったが、この厳粛なミサによって一つの区切りをつけ、50周年・60周年へ向けての出発点とすることができた。



前田万葉大司教による敬老会信徒への祝福

和歌山地区大会

一人ひとりの役割

9月19日(月・祝)、和歌山紀北教会で3年ぶりの和歌山地区大会が行われた。テーマは「和歌山地区のビジョン(司牧・宣教)～ともに歩む(シノダリティ)参加・交わり・宣教～」。



和歌山地区の「準シノドス」としての集まりとなった今大会。台風14号襲来で悪天候にもかかわらず、ミサには58人、午後の大会には半数が残って参加した。11時からのミサでの説教で、主司式の酒井俊弘補佐司教はこう話された。「神様は私たち一人ひとりに役割を与えてくださる。例えば、薬指は力が入りにくい指。だからこそ薬を、紅を差すのにちょうど良い役割がある。世界的に司祭が減っている中、信徒が教会を支える今が、そのさまざまな役割を果たす時。そのため、ミサで行われるイエス様の生贖、贖い、十字架の救い―その恵みの力で、私たちを助けてくださ」と祈りましょう。

「各教会の発表では、4世帯、6世帯で支えられている教会があることを知ったり、高齢化が進み信徒数も少なくなる中、役割分担の工夫を考えたり、施設にあり方とより深いつながりを考えたり、『他の教会から来られた方がいると大きな喜びになる』などの感想を聞いて、今の教会の厳しさと向き合いながら、ともに歩もうとする思いを皆から感じた。『さまざまな事情で教会に来られない方々とながれば、主ととも歩む喜びを味わうことができます』という司教様の言葉に希望を感じた一日だった。」

参加者の感想

(文) 和歌山地区 宣教科評議会



司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでもらいたい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、和越敏神父様(コンベンツアル聖フランシスコ修道会、仁川教会)が担当。

和越敏神父からこの一冊

『教皇フランシスコいつくしみの教会―共に喜び、分かち合うために』(教皇フランシスコ著、栗栖徳雄訳、明石書店、2015年、税込2200円)



現代社会に生きている私たちは隣人と平和に暮らすために、「共通善」を前提としています。しかし共通善のために、共に寄り添うことに心を開いていないというとも言えるでしょう。キリストと出合い、キリストと共にいる私たち

は、ゆるしと和解、兄弟姉妹愛の必要性を認め、神のいつくしみの証人として共に喜び、広く分かち合うようにしなければなりません。ただ理解と同情を示し、道徳的に、物質的に苦しんでいる人びとに寄り添うだけでなく、他者の苦痛と困難を本当に自分自身のうちに深く受けとめ、最大の優しさで寛大さをもって他の兄弟姉妹と一致し、慰め、希望、勇気分かち合い、神のいのちの道を共に歩まねばなりません。教皇フランシスコは、教会が、人の弱さと神の忍耐の間であり、教会を、大きなキリスト者の希望、「良い知らせ」を人が見つけることができる「いつくしみの家」として理解されるこ

とを願っています。この本をぜひ読んで、「いつくしみの家」にたどり着き、信仰に照らされ、生きている神の愛に満たされる自分を発見しましょう。



『祈りへの招き―気を落とさず、絶えず祈るために』(森一弘著、サンパウロ、2022年初版、税込1540円)

この厳しい社会に生きる中、人の醜さや残酷さを一身に受けて身も心もボロボ

この本は長年、司祭、司教として人びとの苦しみや悲しみに寄り添ってきた著者が、心からの共感と共に、疲れた現代人へ贈る祈りのための手引書です。どうぞよく読んで、人生を共に深めていきましょう。

次回は、中野里晃祐助祭(コンベンツアル聖フランシスコ修道会、仁川教会司牧実習)です。

主催者の感想

「コロナ禍や高齢化に伴い、参加者も減少している。今回は6月4日に献堂式が行われた新聖堂の見学も視野にいれていたが、台風14号の影響をまともに



酒井司教による地区大会でのあいさつ ミサ説教の動画 QR コード

